

ヤコブ ③

□ヤコブの信仰の手本

1. 祖父アブラハム、父イサクと同様、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた。
ヤコブは、ノアやヨブと同じように、「全き人」と評された。
 - 人間の「全き者」とは、全く罪を犯さない人という意味ではない。その人の心が神の方をきちんと向いているかどうか、である。
2. 長子の権利を軽蔑した兄エサウとは対照的に、ヤコブは、アブラハム契約の約束を受け継ぐという霊的富の価値を認め、それを真剣に求めた。
3. 父イサクが兄エサウの方を愛し、エサウに長子としての祝福を与えようとしたとき、母リベカは夫イサクをだましてでも、弟ヤコブに祝福を受けさせようとした。ヤコブは母の計画に乗って実行してしまった。イサクはこの事件を受けて、神のみこころに逆らっていた自分の罪に気づき、自ら進んで、あらためて、ヤコブを祝福し、嫁をリベカの実家から迎えるよう命じて、ヤコブを送り出した。ヤコブはこのあと、生涯をかけて、父をだました罪の刈り取りをすることになり（箴言 22：8、ガラ 6：7）、わざわざに耐え続けた。
 - (1) 母リベカの実家の当主ラバンから、だまされた。
 - ① ラバンの2人の娘のうち、妹のラケルを嫁に求め、そのために7年間、ラバンのもとで働いた。ラバンはヤコブをだまして姉のレアを与え、妹のラケルをも妻にしたいなら、さらに7年間の勤労を要求した。
 - ② 14年の勤労期間が明けると、報酬を伴う契約に移行した。しかし、ラバンはヤコブの取り分がなくなるように条件を変えた。この期間は6年。
 - (2) ヤコブは、12人の息子を得たが、息子たちから、だまされた。
 - ① 次男シメオンと三男レビによるシェケム報復事件（創世記 34章）
 - ② 長子ルベンの不祥事（創 35：22）
 - ③ 11番目の最愛の息子ヨセフ 17歳を他の兄弟たちが妬み、奴隷に売り飛ばした事件。ヤコブには、「ヨセフは野獣に殺されたらしい」と報告され、ヤコブはヨセフが死んだものと思い込んだ。ヤコブ 107歳。
4. ヨセフはエジプトの高官の家で奴隷として働いたが、後にエジプトの王に次ぐ地位に就いた。ヤコブと彼の家族は、飢饉に見舞われ、ヨセフを頼ってエジプトに避難した。エジプトに到着したとき、ヤコブは130歳、次のようにエジプトの王ファラオに語った。「私がたどってきた年月は130年です。私が生きてきた年月はわずかで、**いろいろなわざわいがあり**、私の先祖がたどった日々、生きた年月には及びません。」その後、ヤコブはエジプトで17年間過ごし、147歳で死んだ。「信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝した」（ヘブル 11：21）

□本日の内容：ヤコブは、母リベカの実家の当主ラバンから、**だまされた**（その二）

しかし、**神はラバンがヤコブに害を加えることを許されなかった**

1. 11番目の息子ヨセフが生まれたころ、ヤコブはラバンに言った。「私を去らせて、故郷の地へ帰らせてください。妻たちや子どもたちを私に下さい。彼女たちのために私はあなたに仕えてきました。行かせてください。あなたに仕えた私の働きは、あなたがよくご存じなのですから。」（創世記 30：25～26）
2. ラバンはヤコブに言った。「私の願いをあなたがかなえてくれるなら――。あなたのおかげで主が私を祝福してくださったことを、私は占いで知っている。」さらに言った。「あなたの報酬をはっきりと申し出てくれ。私はそれを払おう。」（創世記 30：27～28）
3. ヤコブはラバンに言った。「私がどのようにあなたに仕え、また、あなたの家畜が私のもとでどのようであったか、あなた自身がよくご存じです。**私に来る前は、あなたの財産はわずかでしたが、増えて多くなりました。私の行く先々で主があなたを祝福されたからです。**いったい、いつになったら私は自分の家を持てるのですか。」（創世記 30：29～30）
4. ラバンはヤコブに言った。「あなたに何をあげようか。」ヤコブは言った。「何も下さるには及びません。もし私に次のことをしてくださるなら、私は再びあなたの群れを飼って守りましょう。私は今日、あなたの群れをみな見て回りましょう。その中から、ぶち毛とまだら毛の羊をすべて、子羊の中では黒毛のものをすべて、やぎの中ではまだら毛とぶち毛のものを取り分けて、それらを私の報酬にしてください。」（創世記 30：31～32）
5. ラバンはヤコブに言った。「よろしい。あなたの言うとおりになればよいが。」ラバンはその日、しま毛とまだら毛の雄やぎと、ぶち毛とまだら毛の雌やぎのすべて、すなわち身に白いところのあるもののすべて、それに、黒毛の子羊のすべてをとりつけて、息子たちの手に渡した。そして、自分とヤコブの間に三日分の距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼った。（創世記 30：34～36）
6. このときの経緯を、後日、ヤコブは妻レアとラケルに次のように語った。・・・あなたがたがよく知っているように、私はあなたたちの父に、力を尽くして仕えてきた。それなのに、**あなたたちの父は私を欺き、私の報酬を何度も変えた。しかし神は、彼が私に害を加えることを許されなかった。**彼が「ぶち毛のものはあなたの報酬になる」と言えば、群れのすべてがぶち毛のものを産んだ。また、「しま毛のものはあなたの報酬になる」と言えば、群れのすべてがしま毛のものを産んだ。**こうして神は、あなたたちの父の家畜を取り上げて、私に下さったのだ。**（創世記 31：6～9）
7. このようにして、ヤコブは大いに富み、多くの群れを、男女の奴隷、それにらくだとろばを持つようになった（創世記 30：43）

□ラバンが最初は富むようになり、あとでは、家畜を取り上げられたのは、なぜか？